
体育史学会 会報

Japan Society of the History of
Physical Education and Sport

No. 224, 2019. 11. 28.

体育史学会事務局
<http://www.taiikushi.org>

〒305-8574
茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学体育系
大熊燦雨研究室内
Tel:029-853-6352
E-mail: taiikushi_office@taiikushi.org

事務局への連絡は、なるべく
e-mail をご利用下さい。

I. 体育史学会第8回大会の報告

体育史学会第8回大会は榎本雅之会員（滋賀大学）のお世話により、5月11日（土）および12日（日）の両日、大学サテライトプラザ彦根において開催され、一般研究8演題の発表と体育史研究・研究方法セミナーが実施されました（参加者：73名）。また1日目の夕方には、彦根城そばのポム・ダムールにて、情報交換会を行いました（参加者：49名）。

〔一般研究発表〕（発表順）

- 1) 富田幸祐（日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所）／小野庄次郎『樺太野球史』（1940）にみる樺太における野球の展開
- 2) 山村洋子（北海道大学大学院）／『広報とこころ（通信）・きたみ』にみるローカル・アイデンティティの分析 —— 竹ぼうき時代のカーリングから「ロコ・ソラーレ」へ
- 3) 尾川翔大（日本体育大学スポーツ危機管理研究所）／1930年代初頭における府県体育協会の設置：「内務省－府県体制」に着目して
- 4) 石立克己（北海道大学大学院）／拡大的アスレティシズムに関する研究 —— 労働者階級の包摂とボーイスカウト運動
- 5) 伊東佳那子（中京大学大学院）・來田 享子（中京大学）／1964年「東京五輪おどり」に関する検討 —— 花柳秀による振付の経緯と踊りの再現を中心に
- 6) 榊原浩晃（福岡教育大学）・田端真弓（大分大学）／明治初期・都城縣『小学館一卷』（明治5年）にみる体操関連史料記述 —— 学制公布前後の時代における郷校（都城縣）の課目・体操
- 7) 新井博（日本福祉大学）／昭和4年ヘルセットの指導によるスキージャンプの向上
- 8) 木下秀明（元日本大学）／陸軍戸山学校機関誌「研究彙報」と「体育と武道」の推移

〔体育史研究・研究方法セミナー〕

体育・スポーツ史研究の叙述 —— 投稿論文を創る

演 者：鈴木明哲（東京学芸大学）

司 会：和田浩一（フェリス女学院大学）

II. 体育史学会総会（2019年度）報告

2019年度体育史学会総会を、第8回大会終了後（5月12日・日）に、大学サテライトプラザ彦根で行いました。2018年度事業報告があった後、2018年度収支決算報告（案）、2019年度事業計画（案）、2019年度予算（案）、2019-2020年度役員選挙開票結果が審議され、すべて承認されました。総会の最後には、昨年度から始まった2019年度の「体育史学会研究助成」対象者と「体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）」受賞者の発表があり、大久保会長から決定通知書／賞状が授与されました。

◇2019年度体育史学会研究助成

- ・小谷究（流通経済大学）／1936年の日本におけるバスケットボール競技のドリブル技術に関する史的研究

◇2019年度体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）

※ 対象：『体育史研究』第36号（2019年3月発行）掲載論文

- ・村井友樹（東京理科大学）／静岡県磐田郡龍山村役場所蔵文書にみる全国壮丁皆泳必成訓練：大日本体育会の軍事予備教育に関する一考察

◇2019-2020年度役員体制（2019年10月1日現在）

会 長 大久保 英哲
副 会 長 坂上 康博（兼編集委員長）
企 画 新井 博、來田 享子
編集事務局 和田 浩一
会 計 田原 淳子
事 務 局 大熊 燦雨
監 事 大熊 廣明、掛水 通子

III. 日本体育学会第70回大会の報告

日本体育学会第70回大会が9月10日（火）から12日（木）まで、慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて開催され、専門領域体育史として一般研究発表とシンポジウムを行いました。また、9月10日には、午前中に開いたシンポジウムの演者・司会者とともに、仙台炭焼き牛タン圭助日吉店にて情報交換会を行いました（21名）。

(1) 専門領域一般研究発表

22 演題

(2) 専門領域体育史シンポジウム

日 時：9月10日（火）10:30-13:00

テーマ：日本の体育・スポーツにおける武（士）道的性格

演 者：アレキサンダー・ベネット（関西大学・非会員）／日本人の知らない武士道：武道の国際的マイグレーションの考察

藪耕太郎（仙台大学）／商品化した武道における啓蒙と営利の二面性：前世紀転換期の国内外で出版された柔術教本とその消費的受容に着目して」

坂上康博（一橋大学）／スポーツの武士道／武道的変容説の再検討：拙書『にっぽん野球の系譜学』を中心に

司 会：小田佳子（金沢大学・非会員）

(3) 大会組織委員会・体育史専門領域合同シンポジウム【一般公開】

日 時：9月12日（木） 13：00～15：00

テーマ：自立・自律した個人に価値をおく社会における体育・スポーツ
－福澤諭吉とその時代に手がかりを求めて－

司 会：來田 享子（中京大学）、鳥海 崇（慶應義塾大学体育研究所）

演 者：中澤 篤史（早稲田大学）／福澤諭吉の時代における学生スポーツ－明治期から昭和戦前期まで－

山内慶太（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・福澤研究センター）／慶應義塾における体育観・スポーツ観の展開－福澤諭吉から小泉信三へ－

大久保英哲（金沢星稜大学）／福澤諭吉の思想の地方体育への波及－「鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」（1880年）から－

都倉武之（慶應義塾福澤研究センター）／戦時下における慶應義塾の学生スポーツの実態とスポーツ観－「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクト収集資料を例に－

IV. 2020年度の学会大会について

1. 2020年度の学会大会の日程

当学会に関係する2020年度学会大会の日程は、次のとおりです。例年と異なることにご留意ください。

2020年5月16、17日

体育史学会第9回大会（甲南大学〔予定〕）

2020年8月20～24日

ISHPES Congress Sapporo2020（北海道大学学術交流会館）

※ 大会組織委員会から当学会に後援名義の使用許可申請があり、理事会で検討した結果、後援名義の使用を許可しました（6月12日）。池田恵子会員（北海道大学）が大会組織委員長を、崎田嘉寛会員（北海道大学）が実行委員会委員を務めています。

2020年9月8～12日

The 2020 Yokohama Sport Conference

※ 2019年度総会での報告のとおり、当学会はこの国際会議の参画学会です。來田享子理事（中

京大学)が大会組織委員長を、田原淳子理事(国士舘大学)が同副委員長を、掛水通子監事(東京女子体育大学名誉教授)が学術企画委員会委員を務めています。

なお、2020年度の日本体育学会は「開催されない」ため、日本語による発表の機会が1つ減ります。そこで理事会では、5月の体育史学会における発表枠を広げることにしています。次年度のスケジュールについてご検討ください。

2. ISHPES Sapporo からのメッセージ

<体育史学会会員のみなさま>

日本体育学会の会場にてご案内いたしましたように、オリンピックイヤーの2020年に北海道で国際体育スポーツ史学会(ISHPES)を開催いたします。札幌(新千歳)空港—東京(羽田)空港間は世界有数の就航本数を誇り、その他の地方空港からも多くの直行便がございます。夏季の観光シーズンはオリンピックイヤーではない年でも宿泊施設が満室になります。ぜひともお早目の宿泊予約を頂き、アブストラクトの提出にチャレンジ願います。

なお、参加費に関し、国際学会といたしましては異例の学生割引6,000円(5月31日まで)を設定しております。早割はISHPES会員、33,000円になります。ヨーロッパの都市での開催が主であるISHPESを札幌まで誘致することに成功いたしました。国内から見れば遠路札幌ではありますが、ヨーロッパを札幌まで縮め、近距離にいたしました。ぜひにこの機会に世界の研究者とともに体育・スポーツ史研究の楽しさについて語り、かつ、辛辣な議論を展開いたしましょう。

ISHPES Sapporoは東京オリンピック大会の閉会式とパラリンピック大会開会式前日までの間に開催されます。オリンピックイヤーの夏に是非、札幌にてお会いしたいと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。(事務局庶務担当:池田恵子・崎田嘉寛)

<ISHPES Sapporo 2020 大会情報>

テーマ:スポーツ史と学際性:東京オリンピック・パラリンピックを機に考える

日程:2020年8月20日から24日(24日はオプションツアー)

場所:北海道大学学術交流会館

発表申込期間:12月15日から2月15日

大会使用言語:英語(オープニングイベントは通訳を予定)

参加費等、詳細は以下のISHPES公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.ishpes.org/congresses/2020-congress>

日本語版のサイトは以下のとおりです。

<http://www.ec-pro.co.jp/ishpessapporo2020>

問い合わせ先 Email address:

英語での問い合わせ:ishpessapporo2020@gmail.com

日本語での問い合わせ:sakita@edu.hokudai.ac.jp、kikeda@edu.hokudai.ac.jp

共催:スポーツ史学会

後援:体育史学会、北海道大学大学院教育学研究院

3. The 2020 Yokohama Sport Conference からのメッセージ

学術企画委員（体育史学会）の掛水会員経由で事務局に届いたメッセージです。

1) The 2020 Yokohama Sport Conference の日本語サイト

http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html

2) 一般発表に関するご案内

- ・1人の発表（ファーストオーサー）は、口頭・ポスター通じて1つ。講演やシンポジウムとの重複、共同研究者の重複は妨げない。
- ・トピックスの該当項目（該当なしを含む）と専門領域の該当項目を選択する。
- ・未発表が望ましいが、論文やジャーナルで発表済みでも、それを明記すれば発表可とする。
- ・他の学会で口頭発表したものを発表可とするかどうかについては、早急に検討してお知らせする。
- ・抄録締め切り 2020年3月15日
- ・査読結果の通知 2020年5月15日

（内容に問題がなければ、原則として会場の確保が可能な限り受け付ける）

※ 日本体育学会会員には参加費割引があります。体育学会会員用のサイトからお申し込み下さい。

★ 積極的な発表の申し込みを、お待ちしております。

V. 一般社団法人日本体育学会代議員・委員会委員（2019-2020年度、専門領域体育史関係分）

専門領域体育史の会員として選出された日本体育学会の代議員と各委員会委員は、次のとおりです（敬称略）。

1) 代議員（専門領域選出）

新井博、和田浩一

2) 『体育学研究』編集委員会（体育史）

中村哲夫（主）、中嶋健（副）、後藤光将、藤坂由美子

3) International Journal of Sport and Health Science 編集委員会（History）

寶學淳郎、大熊燦雨、佐々木浩雄

4) 組織・事業改革特別委員会委員

後藤光将

5) 選考委員会（学会賞）委員

鈴木明哲

6) 若手研究者委員会委員

藤川和俊、木村華織

VI. 『体育史研究』編集委員会より

1. 『体育史研究』第38号（2021年3月発行予定）への投稿を受け付けています。

『体育史研究』への投稿の受付と審査は年間を通して行われ、各年度の投稿締切日は9月末となっています。詳しくは、『体育史研究』投稿規定（『体育史研究』最新号、または学会ウェブサイト「[体育史研究] → [投稿・編集規定]」）をご覧ください。なお、『体育史研究』第37号（2020年3月発行予定）への投稿は、9月30日で締め切りました。

2. 『体育史研究』への投稿の宛先

1) メールでの投稿

体育史学会事務局 : taiikushi_office@taiikushi.org

2) 郵送での投稿

〒245-0006 横浜市泉区緑園4-5-3

フェリス女学院大学 国際交流学部

和田浩一研究室気付 『体育史研究』編集委員会

以上